

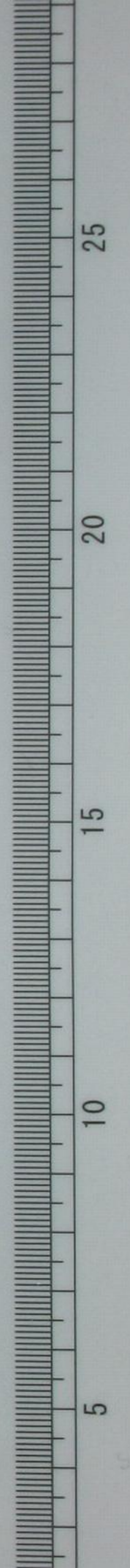
朝夷巡嶋記

第四編

二



イ 13
939
番 17



門 4 13
東 939
卷 13

朝夷巡嶋記全傳第四編卷之二



東都

曲亭主人編輯

中輯第三十三

城を拔せし義士の功
魔と禳ふ良將の弓

總大將光仲ハ廣綱と共ニ城ヲ入りて彼此を展檢し更ニ士卒の部々
前後の城門固さを再テ城戸四郎武詮水草太郎五昌之衆を以テ
その軍功を褒賞し。さていづの御邊ホハ尚弱討め。且その徒ニ
十名小過ぎ暴道時夏二隊の賊軍城より遠く推出。其城中より
成る賊兵も亦夥多し。謀を以テ連ふ棄取。其その夏の爲体
詳小告。い。と。い。は。く。西人辞む。この義ハ。人尋。と。さ。し。と。り。と。り。
上。ん。と。ひ。ひ。つ。れ。ど。嚮。ま。ま。の。い。そ。り。と。ふ。且。黙。止。ひ。の。れ。抑。前。月。上。旬

朝夷巡嶋記全傳第四編卷之二

曲亭主人編輯

賊將猛虎時夏亦小圓山の館を攻破されしと云吉見冠者も擒ふ
 せられ主守の信夫莊司ハも其某ホが父兄ある水草十郎曰浦城
 戸二郎守詮ハ神井鬼六猛虎ガ為ニ殺され刺さる。其母ハ某ホガ母嫂鳴江瀬竹も亦蘇塗暴道ホと血戦し途ニ命ヲ損
 せし。其母ハ某ホガ母嫂鳴江瀬竹も亦蘇塗暴道ホと血戦し途ニ命ヲ損
 大ニ敗れし。戦死し。磐井玉造の両郡ハ墓を築き賊ヲ奪れり。この
 時某ホハ百餘騎の兵と共に遠く正方寺の枝城を守りてゆひ。程ニ
 竟ニ君父の先途ハ必死の儀ニ決り。圓山の館の没落。その夜半ハ其父ハ程ニ
 雜兵亦もや落亡し。残るハ僅ニ三十名必死と必死を決め。其父ハ程ニ
 寡兵を以て勝誇り。賊軍ハ樹向ニ卵を以て石を壓し。異時。時
 侯賊と戦て君父の讐を復せんぬ。必死と必死を決め。其父ハ程ニ
 距れ離散し。近郷小跡を埋め。その必死と必死を決め。其父ハ程ニ
 義邦卿も。笹姫も。獵場の雉の羽と傷も。猶存命し。其父ハ程ニ
 亦用心日夜隙を以て堀ハ高く。斬ハ深し。天飛ハ鳥小。其父ハ程ニ
 身をもち歎く。折しも。其父ハ程ニ。其父ハ程ニ。其父ハ程ニ
 為既ニ下向のゆえ。其父ハ程ニ。其父ハ程ニ。其父ハ程ニ
 宿志を告ぐ。先鋒ニ加す。其父ハ程ニ。其父ハ程ニ。其父ハ程ニ
 功も。其父ハ程ニ。其父ハ程ニ。其父ハ程ニ。其父ハ程ニ
 志を遂ん。其父ハ程ニ。其父ハ程ニ。其父ハ程ニ。其父ハ程ニ

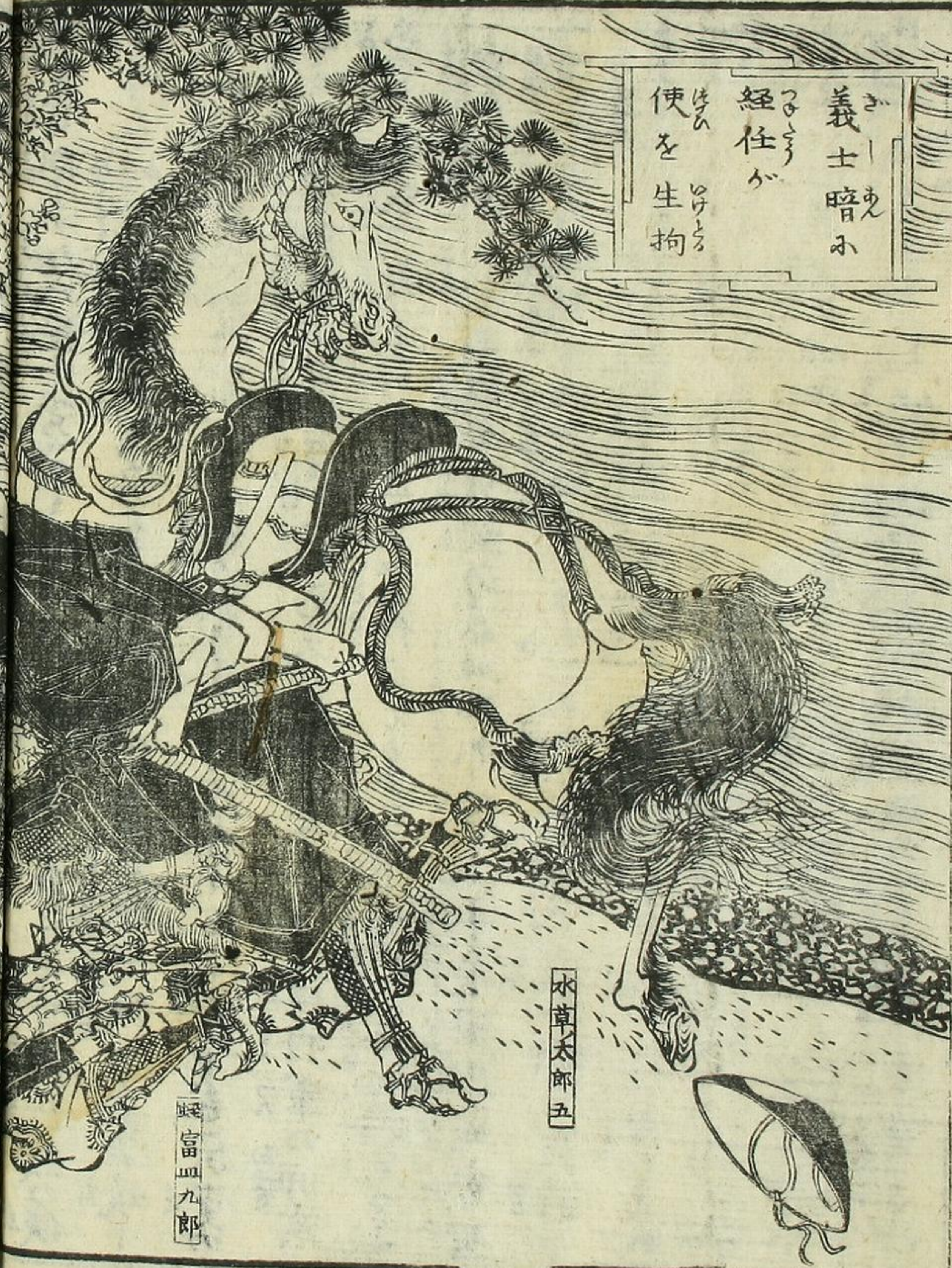
朝夷四編卷二
 二

姿を變る。この鎮守府の古城の邊に徘徊し敵の出入を跟窺ひし。
 曩小賊將暴道時夏數百騎を二隊小ころちり前後の城門よりち
 ちり六角牛山のうへに推行ぬるとこの隙より攻むる城を援むる
 ともいふと心煩ふをちりしうも。躬方へ總三十名賊の大半城を出し。今
 どの守るもの少くんとせんとせむる百騎ありあまふ。白谷乃戦ひ
 便宜しあふとせむる退れ泉川のころころ樹蔭小集りて日の
 暮るるを俟候し黄昏ちりる隨小平泉のころころして一個の騎馬武者
 走り來り某亦途よりんく是を急ぎ使小く急を府城へ告ぐんと
 ちりも猜しと竊小欲ひ武詮の準備の半弓。自ら取指堅め矢比
 ちりる隨ふと引標と發箭小彼騎馬武者の肩を射らむ馬より
 墮と落る如代昌之遠き走り鬼と取てかき嚴く縛め姓名來
 由を責問し初絶くひりて終小若痛堪ざらんこれに修羅殿の使
 者めく蛭富四九郎といふものあり昨夕厨川より兵糧庫故より焼く
 へ躬方より反忠の力のやあ。疑ひあり入らる左小右は安らむとこの夏の
 趣を暴道時夏小疾告ぐ。そのころは彼が鎧の引合と撈りし。
 受りて府城へ赴くものと流し首伏せてる。彼が鎧の引合と撈りし。
 一枚の契あり又その故を責問のふ四九郎答へ平泉厨川鎮守府
 の成へるめ。縦躬方の大将とせし。この契を死めめ。城小へり。武詮
 是を是かきし。修羅公の軍令にかきあちもろ。生口され命をりり
 ゆるせし。その詳しむ。記らむ。昌之が刃の光り共小四九郎が首
 撃落し軍神の血祭は度なめり。祝し衆人勇む。中。小城戸
 武詮商量とせむ。一味の義士のヨメかふ。只一級の首を齎し。寄る。乃

月報四編卷二

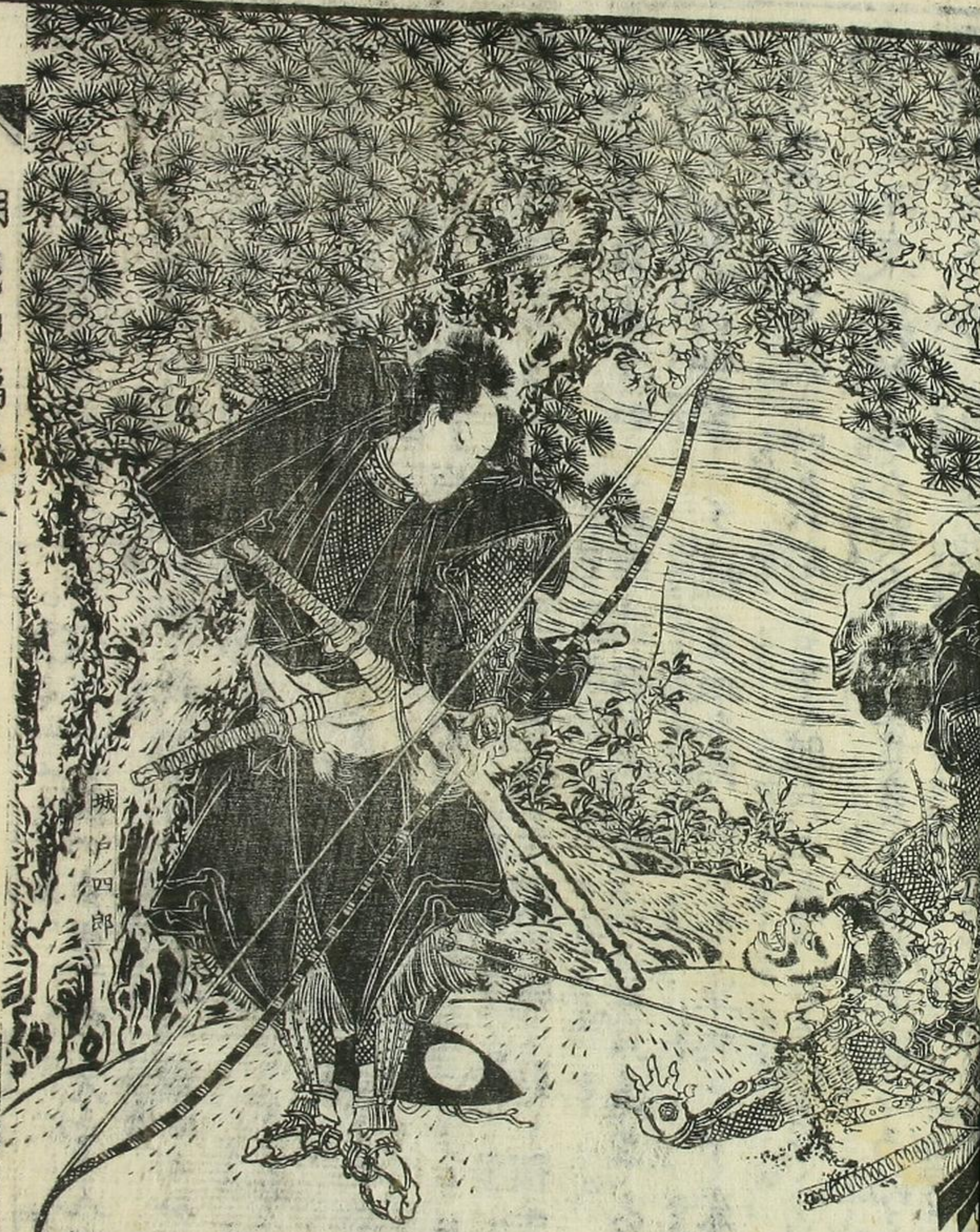
二二

義士暗小
經任か
使を生拘



水草太郎五

巖富四九郎



城戸四郎

陣（系りとも）させる賞美あまのを彼われ多おほ閑のの声こゑやあらんもの人物ものの
音ね幽おと小こ笑わら也なり。あつ小こ賊ぞく軍ぐん敗ま北きたせしなり。欽あついまれる合あ戦せんのなかとお不たえ
るなり。所ところ詮せん如此ごとのなり謀ま成じやうりてなり。鎮ちん守しゆ府ふのなり城しろをせ攻せ落おしたり。こを言こと賀が殿だんは
獻けんらん山さん豈あらんといふなり。とい密ひそ語ごハハ衆しゆ皆みなあらんなり。とい志し々々とい死し骸がい乃なり
物もののなり具ぐをせ剥はれば城しろ戸こ四し郎らうハハこを兵へい遣しんつく。血ち九く郎らうがなり馬うまふらちなり乗のり。
水み草くさ太た郎らう五ご木ぼ北きた九く人にんハハ雜ざ兵へいはハ紛まりて鎮ちん守しゆ府ふのなり城しろハハ近ちかくなり程ほどふらち
黄わう昏こんゆらといふなり。かく四し郎らう武ぶ詮せんハハ城しろ門かどのなり邊へ小こ馬うまハハ進しんめて。あらんなり。
平へい泉せんよりなり。當たう城じやうのなり加か勢せといふなり。蛭こも富とみ四し郎らう仰おほみなり受う軍ぐん兵へいをせおもつなり。
とい城しろ門かどをせ開ひけりとい呼よびて。志し々々とい賊ぞく兵へいホホ角かく門かどをせ半はんをせおもつなり。
透すへり平へい泉せんのなり加か勢せといふなり。契けいあらんなり。見みせりといふなり。小こ武ぶ詮せんといふなり。こを奪うつなり。
兵へい示しせり。且かつ且かつとい城しろ門かどのなり内うちよりなり。いま入いりなり。といふなり。門かど扉ひらとい左ひだり小こ閑の
ほら武ぶ詮せんハハ下くだ馬うまをせせり。昌まさ之のホホ共とも侶りハハ一ひと人にんもなり遺のこさずとい衝つとい入いりなり。城しろ門かどの
内うち小こ聚つ合あはり。衆しゆ賊ぞくをせ矢や度た一ひと破やぶれり。といふなり。小ことい駭おそ騒さわふなり。といふなり。八や方ほうへ
難がた倒たふれり。異い口くち同どう音おん小こ声こゑといふなり。立た信しん夫ふ莊じやう司し元げん晴はがなり股こ肱こ腹はら心こゝろとい呼よび
とい城しろ戸こ三さん郎らう守しゆ詮せんがなり。第だい四し郎らう武ぶ詮せん水み草くさ十じゆ郎らう昌まさ甫ふがなり。一ひと子こ太た郎らう五
昌まさ之の君きみ父ちちのなり怨うらみをせ報うへり。為な小こ追お伐はのなり大だい將じやう賀が殿だんのなり先せん鋒ぽうハハ参ま加かりなり。同
志しのなり義ぎ士しホホとい謀ま一ひと合あはり。とい當たう城じやうをせ乗の取とりなり。命いのち惜おしくなり。降くだ参ませりと
呼よびて。名な告つぐなり。縦たて横よこをせ尋たづねり。小こ殺ころ奔はんなり。といふなり。小こ龍りゆう蛇だ茂しげ林りんの
とい小こ兵へい火か焚たりなり。矢や叫こゑ鯨くじやう波なみ漸しげとい追おつなり。賊ぞく軍ぐん敗ま北きたのなり兆しやう見みえり。と
逃にげ足あし踏ふるなり。城しろ中なかのなり賊ぞく兵へいホホ不ふ意い伐は敷しとい防ぼ衛ゑ戦せんハハんなりと
といるなり。のなり蟻あひ子こをせ散ちらせりなり。八や方ほうへなり逃にげ走はるなり。をせ此こゝ追お詰つめり。彼かれ一ひと破やぶれり。

朝鮮四編卷二

四

只草葉を茹るごとく。四五十人を撃ち當り生拘れ人あ及びりく残る
 奴原疾代員々も。塀を踰り討つと斬り落石は碎れ腹をめり稀
 るるに躬方へ一個も傷損なく。忽地城を乗取らる。寄ひの入来之俟
 不ぶ果し。時夏暴道亦軍敗る。そが落武者二十騎かろうと。
 甲夜に城門の邊にあり。夜陰なれば。只前と射りて
 走し。後小安け。彼落武者の賊の大將鶴東二暴道太郎時夏
 る。アとぞ。知らざり。撃ち當り。送憾ゆと武詮これを物とれ。
 昌之句を統た送れ拾ひ。送代は演説と。光仲熟うらやみ。吁
 智るるか。邊ホも。齡さ。少し。忠孝の心いと。不思議の計
 畧とめ。輒く城を攻落せ。第一番の軍功と。下野は
 在り。吉見討者と。刎頸の友と。傳へも。平泉の柵を

攻かり。討者と。危難を救ひ。日を俤く。俟べ。忠勤
 勵ま。聊當坐の賞あり。鞍置ら。名馬二匹を奉せ。武詮日
 之ホ。是。與。廿八人の義士。木刀物具。とぞ。禄を取せ。皆
 皆拜舞。吉見。討。士率。木。計畧。を。感嘆。且
 その功名を。志を。励。程小春の夜。さ。バ
 短く。東雲を。明。光仲。廣綱。告。城中の倉庫。と。ひ。う。
 錢財。卷。絹の類。功。ある。士卒。小。配。分。又。賊の貯。兵。糧。を。過。半
 當郡。百姓。領。取。と。來。賊。乱。の。窮。乏。を。賑。法。度。を。略
 老。軍。令。を。正。一。獲。員。と。勅。戰。役。せ。雜。兵。の。屍。と。求。め。埋。葬。せ。
 一。つ。慈。善。と。宗。と。賞。罰。私。あり。士。率。僉。然。び。勇氣。日
 來。十。倍。せ。り。か。く。その。夜。海。老。尾。加。世。九。十。個。の。雜。兵。を。討。て。厨。川

よりかやともの光仲馳く對面し。夏の越成次口より加世九より豫ての
 計畧のちる小間昨厨川の柵小紛と入り。兵糧庫を燔り。為
 体を演説し。さるの軍小克せしむ。賸この鎮守府の城を獲
 させあふ。路次の風聲定らるる。又向く。さる。その
 賀を速ふ。光仲と加世九が功を賞し。十個の雜兵小。夥禄
 を取らせけり。程小光仲廣綱西大將龍蛇茂林の一戦小賊兵を
 塵盡め。鎮守府の城を攻落せし。彼此小休め。初ハ券。心
 せざり。當國の武士浮浪人。日ある。むせ集。その勢。慮千
 五百餘騎。小。既。破竹の勢。い。この新隊。りて平泉を
 攻ん。光仲ハ出陣の分部を廣綱。相譚。小廣綱。當城。こ
 賊地の。守る。の等。不慮の失。進。賊を

撃。小由。この城を守。後。出陣。多。光
 仲。再談。及。過。中守直。海老尾。加世九。五百餘名の士
 率。留。廣綱。小。府城。守。せ。城。戸。四。郎。武。詮。水。草。太。郎。五
 昌。之。を。先。鋒。と。佐。味。竺。内。下。河。邊。小。三。郎。を。後。陣。と。備。せ。一。千
 餘。騎。成。之。隊。と。し。け。經。任。が。推。籠。る。平。泉。の。柵。成。望。く。進。費。と。そ。が
 路。傍。る。百。姓。們。と。老。を。扶。け。幼。を。抱。死。つ。出。く。大。將。と。し。再
 度。の。勝。軍。を。ぞ。念。ト。案。下。某。生。再。説。平。泉。の。柵。る。賊。首。羅。五。郎
 經。任。と。曩。小。鎮。守。府。の。偽。將。蘇。塗。暴。道。が。注。進。を。休。め。冷。笑。ひ。云。年。
 足。利。義。兼。が。大。軍。を。お。と。せ。り。小。何。ぞ。や
 此。度。ハ。賀。光。仲。と。中。人。が。僅。小。五。百。騎。を。お。と。當。國。より。入。り。既。は
 六。角。牛。山。に。屯。せ。し。む。つ。を。り。の。る。を。暴。道。と。智。あり。

時夏ハ勇あり。鎮守府より奴原を襲撃し、疑ひあり。兩將の多く
 軍議を凝し、大に勝軍を告ぐ。と答遣し、騒ぐ。氣色ハよろ
 小次の日ハ又厨川の柵あり。經任ガ偽將、踏大吠、又陰行とのハあり。飛
 馬の使をり、本柵數軒の兵糧庫ハのづら、火燃ゆ。昨夕焼亡し、
 ひと告ぐ。經任ハ眉を顰め、厨川ハ根城あり。輒く人ハ性
 返を許さ、敵ハ間諜者あり。と難う。今彼知る
 兵糧庫故あり。と焼亡せし、躬方ハ反忠のハあり。牧屋亦
 へ。と疾このよう、暴道ハ報知し、夏ハのろ、或は
 賊將、姪富皿九郎とのハあり。鎮守府へ遺し、是下りして、經任ハ疑
 心、竟ハ輒と、兒ハ服心のハあり。竊ハ眼をつ、ハ賊の四頭領ハ
 神井鬼六、猛虎、鐵指、矢藤、五重、連珍、備五、十六、方相、水ハあり。
 衆賊、送ハ心をお、いと安、と、か、その日ハ暮、又時
 え、と、比ハ蘇塗、鶴東、二、暴道、刀野、太郎、時夏ハ唯、二、騎、小、討、る
 且、と、數、个、所、浅、く、を、負、る、が、平、泉、の、柵、ハ、股、と、牙、の、神、井、鬼、六、鐵、指、
 天、藤、五、ホ、ハ、就、ク、敗、軍、の、り、或、告、小、け、且、ハ、經、任、ハ、或、使、敢、む、忙、
 卧、房、を、去、り、馳、て、暴、道、時、夏、を、目、前、へ、召、し、ん、夏、の、顛、末、と、訊、ま、
 件、の、二、賊、ハ、拜、伏、し、し、要、時、頭、或、搦、む、と、屢、問、し、て、暴、道、が、ハ、敵、
 寡、兵、多、し、ハ、か、と、出、て、戦、ふ、と、死、ハ、利、カ、某、の、義、を、お、め、ハ、或、ハ、龍、城、
 せ、と、の、つ、と、時、夏、ホ、け、り、と、過、言、或、吐、ち、し、し、同、士、擊、ま、
 へ、光、景、多、る、ハ、大、早、の、兵、ホ、み、時、夏、小、荷、擔、し、し、勢、ハ、制、し、と、
 某、已、ハ、或、は、軍、議、を、枉、く、云、云、ハ、計、し、し、百、餘、騎、を、留、せ、と、城、
 守、せ、時、夏、ハ、二、百、騎、と、授、く、敵、と、誘、ハ、或、り、て、某、ハ、亦、百、餘、騎、を、

い。龍蛇茂林と埋伏と敵の追逼ふ及なく急小起とす。挟と謀
 合せて撃めんよ。麿塵ゆへと。その小内応のゆゑや。え。敵もや伏兵
 ある。我知く。そのけり。背より。茂林と火を放りけ。其躬方の竟と
 うち負て。四百餘騎の軍兵に大さるるを。撃れり。其木ハ卒と。一
 方の圍を殺披。鎮守府の城小入ると。さ。小誰と。あ。信夫
 莊司が。残黨小府城と。追落され。敵入る。且。寄著。と。て。て
 残兵み。撃。時夏某。終小二人。追。敵。破散。く。あ。う。そ。く
 恙。る。れ。を。ゆ。り。時夏。ホ。怒。れ。不慮の敗軍。送。恨。堪。む。その
 罪。萬。死。と。當。田。と。い。も。願。ふ。他。日。軍。功。を。め。く。外。口。を。贖。ひ。な。ん。恩
 免。あ。る。再。生。の。款。び。申。す。い。へ。と。啣。を。り。く。勸。解。小。けり。經。任。これ。を。使
 ぬ。を。勃。然。と。し。く。声。を。あ。り。立。中。を。直。暴。道。汝。ハ。一。城。を。領。ま。り。その
 軍。令。行。ま。り。副。將。時。夏。ホ。が。恨。み。お。それ。を。牧。居。り。解。へ。死。敵。を。攻。む
 その。謀。に。陥。ら。し。夥。の。兵。を。亡。く。曠。城。を。攻。落。さ。し。何。の。面目。あり。そ
 ぬ。と。來。り。又。時。夏。奴。ハ。罪。多。し。重。く。汝。ハ。副。將。と。あり。ぬ。我。意。成。終
 而。て。切。ら。し。戦。ん。と。欲。し。已。を。過。り。入。を。謬。る。寔。は。嗚。呼。の。白。物。あり。
 あ。ら。必。貳。ぞ。ろ。あ。り。敵。小。内。応。を。さ。る。あ。ら。ん。今。さ。ら。あ。ひ。あ。ら。ん。小。厨
 川。の。兵。糧。の。故。あ。ら。し。と。燒。く。る。も。亦。這。奴。が。所。行。る。ま。り。と。く。大。床。の
 下。小。引。居。よ。と。が。あ。ら。し。刑。罪。せ。ら。し。この。熱。腸。を。冷。し。と。く。と。く。と。敵。圍
 け。刀。を。引。提。く。立。ん。と。と。序。を。鬼。六。猛。虎。膝。を。進。め。く。隔。て。い。か。推。し。め
 時。夏。ホ。が。怒。り。を。輕。く。し。た。ゆ。へ。お。ん。怒。り。然。る。と。ま。れ。も。渠。り。敵。ハ。内
 應。せ。ば。死。成。犯。し。阿。容。と。し。と。凶。く。あ。ら。ま。ま。と。ま。へ。り。も。あ。ら。む。鎮。守。府
 の。城。小。入。り。く。敵。小。勸。賞。を。乞。へ。た。り。その。貳。ぞ。ろ。を。死。せ。し。脱。る

べん路ハあふねど前年の功小顧て且一命を助るる他日大功あふんと死
 今の罪を贖せり是莫大の恩澤あり人敵を境又置まざる躬方の
 大将と殺まふ不吉なり枉く免させりうと辞せりく諫めけり
 浩如小鎮守府の城を攻落さすこと絶小必死を脱まざるハ賊兵十
 人許大床の下まぎ来り城戸四郎武詮未計らさしその夜の夏
 為体を明之地に報し久経任ゆき怒小勝ぶおほく哮狂ふ小あん鬼
 六々矢藤五小目を注しうをれハ矢藤五も亦辞を竭し暴道不為よ
 賠話鬼六ハ復時夏が為小勸解共侶小諫し久経任も漸狂ひ疲
 暈の上小礮と坐し霎時疾視て息吹吻死彼由此も恥しうとや
 小赦と死奴原まねど人の諫も黙止ざりされ衆人の視徳又時
 夏奴ハ難兵の中へ追降し水成吸せ風爐を焼せし暴道ハ宿所小退て
 信と憤をなすゆと嚴小命旋と軀と件の西賊を追退けし憤小
 けん俄頃ハ出陣の部しと府城を攻んと議さる程小鬼六矢藤五十五
 六小齊一これを諫ていさす敵ハ初度の戦ひ小十二分も提て新隊も
 ちや加しとせんは鋭氣且く當るべしと只その懈るを俟て攻撃せり
 一率しと城を拔へ今攻めぬ尚早しとこの理り成速し久経任有理と答ひ
 久の敵の虚实を撈まると間諜者を鎮守府へ遣し又珍浦五十五六を
 三百騎が將としと泉川のまき小備さを敵しをすまはと告ぐと命
 下けるかすし程小一鎮守府へ遣せし間諜者走りけりその府城も
 新隊夥加りくその勢もめ小二倍せりこれゆり光仲ハ又本柵と攻んと
 欲と御用心と告ぐる小又その次の日ハ五十五六が使泉川より馬小鞭
 走しと光仲既小一千餘騎を招く泉川をくら渉り水を背めし備と

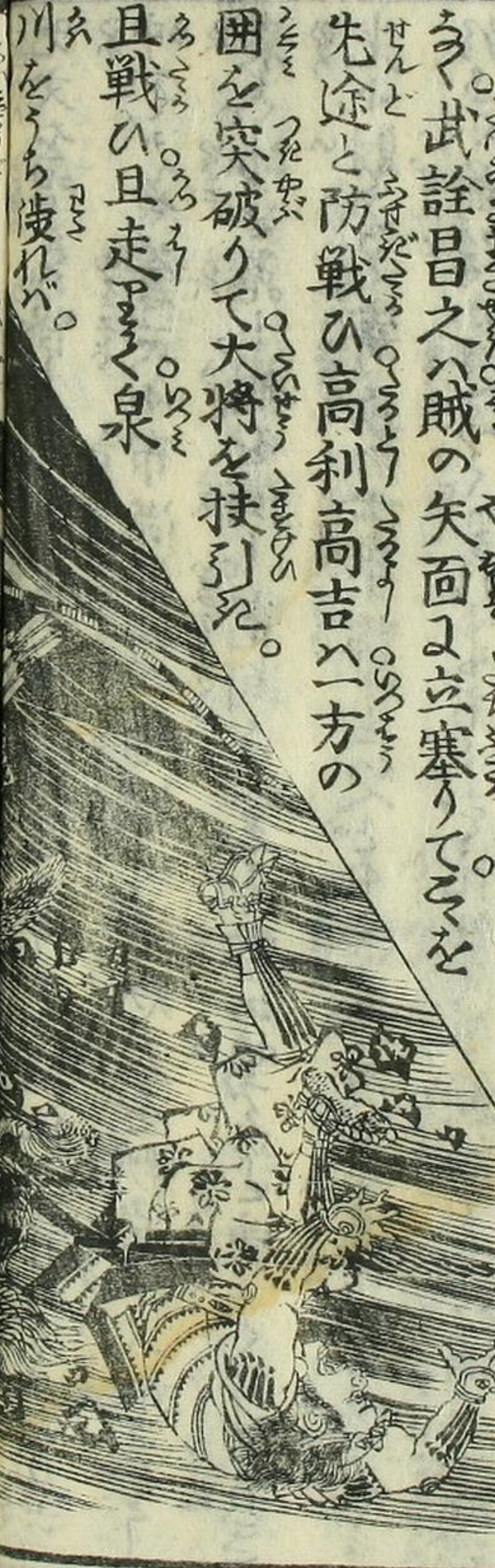
立り。先鋒ハ如此ニあり。中軍後陣ハ箇様ニと喘々告々。経任はよく
 冷笑ハ大約兵を行小り水はあふた。六川を前より備を立敵その
 川を渡まると中流よりこまを撃。是兵法の要領なる。小光仲今水と
 背より陣せし。是韓信が囊沙背水の陣。小做ふりの多り。遮莫これ
 及び。駈向ひて撃散。前日暴道亦が恥を雪ん。ゆくとひひけ。鏝
 一縮。馬小くち乗り。衆皆續け。といふ。鬼六矢藤五左右小備く
 芳らぬ賊兵千五百騎。みか後と。馳け。再説光仲の一千餘騎
 泉川をうち渡。前面を信と見。とせ。六川原。或距五六十町。賊
 軍僅小三四百騎。指を雌羽小衝並。射て落。えと。扣。寄。乃先
 鋒武詮。昌之ハ。少。勇士。これを。巻を。捺。下。の。大
 將の下知を俟。小光仲先鋒小使を立。賊を。小似。と。寡兵あり。是
 かの。謀。その。試。武詮。昌之。一。議。小。及。を
 歡。士率を進め。乃勢。九。二百騎。鯨波を齊。揚。珍浦。五。五。六。が。二
 軍。面。背。ら。む。突。蒐。り。射。と。物。と。せ。嘯。叫。攻。立。ま。が。
 賊兵。ホ。色。め。茶。れ。引。退。んと。程。賊。首。經。任。大。軍。を。平。泉。より
 後。來。の。彼。撃。散。せ。と。命。叫。べ。神。井。鬼。六。鐵。指。矢。藤。五。八。百。餘。騎。を。二。隊。小
 分。寄。の。先。鋒。二。百。騎。を。推。包。く。擊。んと。寄。も。亦。これ。を。佐
 味。竺。内。下。河。邊。高。吉。ホ。四。百。餘。騎。の。士。率。を。進。め。く。葛。直。一。柱。留。め。力。を
 勅。戦。へ。も。賊。將。鬼。六。矢。藤。五。八。百。餘。騎。を。進。め。て。此。も。猶。豫。せ。馬。上。小。鋒。を
 振。閃。して。騎。繞。り。賊。兵。亦。瓜。罵。將。大。く。再。三。に。探。り。け。五。十。五。六。が。二。百
 騎。これ。小。氣。を。盛。え。武。詮。昌。之。ホ。一。軍。と。入。茶。れ。つ。戦。小。程。小。經
 任。も。亦。七。百。餘。騎。の。賊。兵。を。潮。の。盈。が。推。出。く。光。仲。の。卒。陣。へ。吐。と

嘯く撃て鬼を先伸とて士率を進め陽は関陰は閉諸葛が八
 陣李靖が五法秘術を盡しと挑戦矢叫の声天を翳め馬蹄の
 音八地を動しと撃つ敵も追ひ返らぬがと小隙ありけり當下
 光伸麾兵ち揮り賊を大軍ありといふと原是鳥合の奴原あり
 御方の背小大河あり退くと水小弱ま進めくと下知ま士率
 却く勇を奮めと残員と推除死骸を踏踏千騎が一騎小をさす
 矢をまきと攻立ま経任が千八百騎その鋒は辟易しとあつらふ
 靡く小るん城戸水草佐味下河邊の四勇士未驚破賊軍は崩落り
 今経任を撃捕ま何の時を期ま死ぞと呼り馳ちま千変萬
 化と戦へ賊軍のしく乱立と撃つめ少くも摠敗軍と見えふ
 賊首経任此も騒がむ鞍壺小突立あわむと食むる劍を額小鬚に口よ
 呪文を唱ま怪しむと一采の魔雲陰とくく経任が北月のくく立
 沖マナを蒼天小布満々四面晦暎とて咫尺を辨む風又颯とわ
 来く沙を飛し樹を倒し電間ま雷の鳴ると凄しく耳と貫三
 光小射ま寄るの士率悍とといふも進んとる小進れと退んと
 けり小前後小迷ふとこれ小あむ忙然とる前面より珍浦五十六
 左右より鬼六矢藤五衆賊を進めと射くる箭ハ電光よりあ
 繁く経任が一軍も亦十字小蒐ちま光伸をみ拘めせと呼る
 声も高まとも敵ハ何処にあまともゆりらぬ寄るはこも騒死乱れて
 壁ハ宿鳥の鏑ま如く雑兵夥敷とる皆脱まんと打揮せりそのと死
 光伸声をまの立のひのま死入りの拳動ま賊は幻術ありの豫て
 けりゆく所まま只光伸が殿は跟く圍を出ると論んこの日也

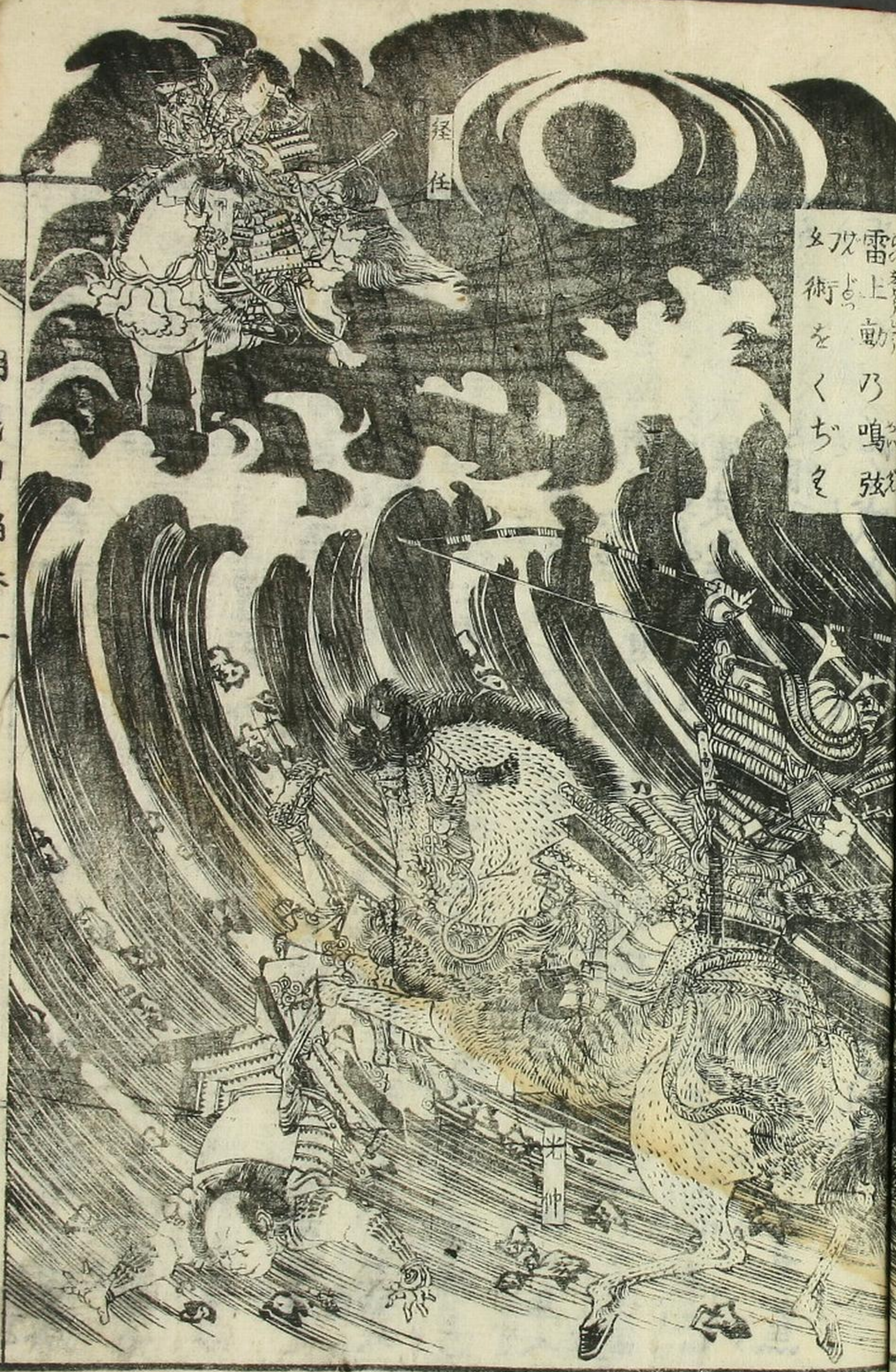
朝野群載四編卷二

十一

陣中不獲る。雷上動の灵弓を取らる。うち念く馬の上を
 暮目の射法弓強を二つと鳴せ。現名弓の徳怒を候。怒雲
 散風凧。舊の白晝亦多ふけり。経任へて術を折れられぬ。
 撓まど。頻小衆賊を駐立く。不先仲斌撃んとも。是の
 鬼六矢藤五五五六ホの三賊將四方八面より推り巻く。
 横矢背箭前射くけ。寄るハ備を立る隙
 武詮昌之ハ賊の矢面立塞りてを
 先途と防戦ひ高利高吉ハ一方の
 困を突破りて大将を扶引死
 且戦ひ且走り泉
 川をうち使れ



雷上動乃鳴弦
 攻術をくちぎ



怪任

賊の大軍透間もろく追蒐する。されば引後する難兵ハ水中に追落
 され底の水屑となるのみ多く然るに河原又破仆さす。沙石小
 骸を埋るのみ少くも。されば先仲を佐味下河邊城戸水草の
 四將と共に残兵を招き巻く。向の岸小馬込乗揚鎮守府と投て
 退く程小経任ハ長く駈てこれを追ふと甚急なり。かすもこれを先仲ハ
 志し又走る御方の士率を是首小侯彼首小聚く既小府城小迫
 けく程小廣綱ハ城樓より遙小こを忍びく。驚死を中軍人
 志く二百餘騎を配出させ援く御方と引揚より。されば群が追蒐
 来る賊の大軍徒小城を盼て眼入せむ。後悔し罵る。就中経任ハ
 自ら空しく遠恨又堪む。敵小臆病神の離れぬ間小く攻落せし焦
 燥へ。麻の如く城を囲て。昼夜をこるを攻るもける。

中輯第二十四

邪を祛る妙薬方
 類と賊ハ大奸計

泉川の敗軍小佐味下河邊城戸水草の諸將ホハさす。難兵に至る
 痛む。残員ぬれ稀あれも。み先仲廣綱の恩を感し義と重し。と
 聊も疲勞を告む。城中五百の健兵とも小おのく。持口を受よりて防
 戦ハざるのみ。されば賊の大軍蟻の如く塹を遠し。堀小著て攻襲こ
 間あけまじ。城中弱る。亂色あり。術をかえり。禦ごと十日あより。小
 一。小経任を。倦勞まじ。この城急小落べり。且兵を退けく。
 遠巻め。日を送る。城中竟小兵糧竭ん。然るに野心ののり。あ
 そのと急。拉ハ。塵小あつべれ。さ。と。軀く。旨を。攻口を。釋
 退け。城を。數町。城中の通路を。断塞。胆澤の社の南

泉の里のころこまで駭陣營を結構く遠攻めぞあつたけり。され
 ども城中の防禦ゆるく間断る。光仲ハ廣綱とあつたけり。光
 仲ハ廣綱を勸り。急ぐの成奨。泉川より數里。士卒のその妻その子を
 憐れむ。懇切に扶持し。多し。日數経る。腫痛を破傷風より。遂に帳
 傷を負ふ。日數経る。腫痛を破傷風より。遂に帳
 中ゆぞ臥たりける。士卒ハこれ小驚死憂ひく。おのく頸を病し。大將の
 本復を禱ふ。あつたけり。さゆ程小賊の陣少。一夕。神井鬼六猛虎
 夜行し。一個の行客を捕捕。馳走。賊率ホこれ牽し。さゆ程
 經任小告てのあつた。某今夜夜行して怪し。行客を生拘り。その為
 体全く遠方よりあつた。必城中に潜せり。泉川の戦ひ。大將光仲
 其の來歴を責問し。彼を遂に陳べ。云。これハ廣綱の家臣。海老
 尾加世九と呼ぶ。城に潜せり。泉川の戦ひ。大將光仲
 矢傷。破傷風より。既小是危窮の症。廣綱よ。是れ
 夏夢程小或人のいづく。この陸奥の國府よ。云。云。の良醫あり。さゆ程
 多く迎へ。その療治小任。平愈速る。と。廣綱はこれ
 命。國府の良醫を召んと欲す。運徴し。見外され。古又の
 あり。計のゆえ。問れ。經任頭を傾け。莞然と笑く。
 うち點頭。生拘り。さゆ程。鬼六ハ加世九と。貴子の
 端近。立。床。尻を掛。程小。鬼六ハ加世九と。貴子の
 下。推居。當下。經任ハ左右。命。加世九が。縛を釋放。させ。貴子
 の上。召の。夷訛の言語を。傾け。廣綱が。家臣。海老尾加世九
 と。汝が。汝ハ光仲が。為。小。城。と。國府。良醫。を。徴。と。

朝野群載 卷二

十四

そのるありや。ゆふ。と問は加世丸答く。然るりとのみ経任左右と云へりて。
 一の賓客は物取。取せよ。と云く。いとそが豫くらろをぬけけん一個の
 賊率。奥よりぬく。沙金を折敷。小積。う成。そほろり小厩。一か加世
 丸。呆果。くいとむの。とあげぬ。かんか。うん。引もぬ。いせ。と。巡。の。て
 け。は。経任。呵。と。う。ち。笑。ひ。加世丸。その。か。寸志。疑。む。と。受。納。よ
 汝。も。人。態。嗚。呼。い。あ。ま。ま。と。大剛。の。の。ち。ま。ま。と。大軍。の。圍。成。犯
 者。と。國。府。へ。赴。く。と。成。せん。や。その。忠。勇。を。感。む。る。あ。ま。り。と。今。汝。と。殺。す。小
 忍。ひ。む。心。を。改。め。く。これ。小。仕。よ。富。貴。歡。樂。自。在。あ。ま。ん。と。い。れ。く。加世
 丸。頭。を。拊。某。既。は。生。拘。と。屠。所。の。羊。金。中。の。魚。あ。り。再。生。へ。と。い
 る。と。一。命。を。助。け。た。れ。て。難。の。禄。を。賜。り。贖。召。使。ん。と。仰。せ。る。是
 塞。翁。が。馬。は。む。と。禍。変。と。福。ぬ。る。と。い。ふ。と。は。な。り。の。あ。り。と。

席を離れ。肘を張り。空を仰。目をまぶ。を。但。癩。蝦。蟻。の。這。不。如。く。
 敬。く。赤。心。と。示。せ。し。と。衆。賊。か。め。く。笑。ひ。を。忍。び。く。嗚。呼。の。者。と。か。と
 お。の。ひ。け。り。か。く。経。任。と。加世丸。を。陣。中。小。苗。め。り。毎。日。小。美。酒。佳。敵。を
 り。て。飽。ち。を。不。款。待。さ。せ。今。は。を。と。死。比。あ。う。ん。と。思。ひ。し。と。一。日。左。右。の
 賊。兵。を。退。け。く。獨。加世丸。を。側。親。く。招。れ。し。を。汝。の。廣。綱。小。使。れ。日。と
 今。こ。ま。不。仕。る。と。孰。く。樂。し。明。の。地。小。意。中。を。知。せ。よ。り。城。中。へ。歸。去。
 ら。ん。と。あ。ま。ま。還。り。遣。ま。さ。し。汝。が。と。ろ。ろ。と。問。ま。く。加世丸。眼。を。睜。せ。
 と。思。ひ。し。と。同。せ。し。と。思。ひ。し。と。某。廣。綱。小。使。れ。日。と。一。碗。乃
 蔬。菜。さ。ま。ま。く。食。ふ。と。成。ぬ。と。然。る。を。捕。れ。と。こ。の。御。陣。へ。系。り。
 日。の。り。昏。の。美。食。は。飽。夜。の。温。小。臥。し。王。公。貴。人。の。榮。華。小。む。と。此。の
 樂。を。今。こ。ま。棄。く。翌。日。も。憑。ぎ。し。府。城。へ。ま。ま。還。る。と。然。鴻。恩。と

受あつて。報ひなす由か。用ひらるるもあふ。二命も惜と
 せ。只報恩をむくの外。他念ハあらず。いと。回答をまれば。經任ハ
 あり。よげ。うち。領死さむ。あえん。け。と。あ。ん。ま。う。は。野。偽。ま。く。は。日。れ。ふ
 一計。あ。や。も。その。計。畧。ハ。別。議。ふ。あ。ら。ざ。ど。が。陣。中。ハ。惡。別。當。訥。愿。と
 必。塞。修。驗。あ。り。渠。を。年。来。じ。と。は。小。は。く。臂。力。強。く。膽。太。い。汝。ハ。彼
 訥。愿。を。待。み。く。今。夜。府。城。へ。立。り。國。府。へ。某。甲。と。必。名。醫。と
 迎。来。ま。り。と。偽。り。て。渠。と。光。仲。が。病。床。へ。進。め。よ。その。と。死。訥。愿。ハ。光。仲。が
 脈。を。診。し。や。う。ふ。あ。と。推。伏。せ。し。く。刺。殺。さ。ん。汝。ハ。城。に。火。を。放。て。事。乃
 紛。々。小。城。門。を。開。け。給。日。と。その。煙。の。度。り。成。己。ハ。短。兵。急。に。推。寄。て
 立。地。又。城。と。落。さ。ん。事。成。ら。ば。汝。が。功。ハ。四。首。領。の。次。小。居。ら。く。賞。禄。ハ
 大。後。小。侍。と。も。又。あ。ら。ざ。死。度。あ。ら。ま。某。原。ハ。俳。優。人。と。く。廣。綱。乃
 譜。第。小。侍。と。も。且。その。恩。義。ハ。浅。く。も。有。擊。小。故。主。の。と。を。れ。ば。そ。は。死
 せ。し。く。殺。せ。と。ま。ふ。聊。難。義。ハ。助。さ。る。も。光。仲。が。主。君。小。侍。と。も
 それ。れ。と。も。被。人。と。月。来。の。ひ。と。た。悲。あり。な。め。廣。綱。乃。息。女
 且。見。姫。小。某。懸。想。し。け。ら。ふ。の。ま。ご。本。意。を。遂。じ。く。光。仲。小。妻。と。れ
 胸。小。燒。火。の。浅。向。山。富。士。の。煙。の。雲。と。り。雨。と。り。人。の。樂。さ。ぬ。と。羨。し。く
 及。ぶ。及。ぶ。ぬ。恋。と。身。を。責。め。ぬ。の。絶。て。も。恋。あ。ら。彼。人。の。為。小。城。と。出。て
 國。府。小。良。醫。師。徵。し。と。分。付。ら。れ。主。命。を。い。と。朽。を。く。ぬ。ひ。つ。る。又。活。さ。を
 殺。し。今。の。御。誕。ハ。常。言。の。人。疫。鬼。と。く。雙。言。を。復。と。類。小。て。願。ひ。て。も。難。き
 幸。ひ。ま。る。左。右。の。あ。ら。く。刺。客。の。道。死。つ。ら。る。と。ん。そ。の。ら。ハ。成。の。ろ
 安。れ。と。意。趣。さ。告。て。兼。引。中。の。經。任。大。と。小。致。び。く。訥。愿。と。し。ひ

立たてたてた阿あとと応おぐぐ鳥う髪はのの賊ぞく僧そう裡りよりより無なくく幕まくをを掲かぐぐ傀くわい俣びのの如ごとくく見み
 れれぬぬ衆しゆ加か世せ丸まるををかかええるるまま不ふ齡れいハハ四し十じゆ許をるるままくく眼まなこ圓まる小こ色いろ黒くろくく厚あつ
 累かさねのの草くさ乃の身み甲かししくく朽く葉は色いろのの大おほ袖そで小こ綾あやのの銷せう金かねのの輪りん袈か裟さ袋ふくろ袋ふくろ掛か
 白しろ括くわくのの帶おび或ある前まへ小こ締ひてて朱しゆ鞋げのの大おほ刀やいばをを跨またるる一ひと癖くせああるる死し面めん魂こん回わいをを
 某たれととままををれれとと當あた下した徑みち任にんハハ訥ねつ原げん或ある傷やう小こ竹たけ々々せせ加か世せ丸まるここまま今いま笑わら
 けけるる惡あく別べつ當あた訥ねつ原げんををううけけららるるととてて六む狗いぬとと鷹たかををかかつつ持も場ば小こ赴むかくく
 るるままハハ公こう限げん多たくく謀ぼう一ひと合あせせよよ彼か密みつ策さくをを豫よててししるるこのこの山やま伏ふししハハ示し
 ころころとといいふふ兩りゆう人にんととろろ成なりゆゆとと送おくるる名な告つりり向むか後ご或ある契ちがひ介けほほととくく笑わら坪つらのの
 會あひみみををああややままけけるるととくく行ゆ程ほどみみそのその日ひもも既すで小こ暮くれししハハ訥ねつ原げんハハ國くに府ふよりより
 來きれるる醫い園えん師しののととくく打う扮はんくく假かりハハ行ゆ装まをを整ととのめめ鉞せき囊ふくろをを懐かかみみ一ひと藥やく
 籠かごをを腰こしめめとと加か世せ丸まるとと共とも侶りよ小こ鎮ちん守しゆ府ふのの城しろハハ赴むかけけババ徑みち任にんハハ鬼おに六む

鎮守府の
 城一加世丸
 訥原を伴ふ



矢藤五五六木の賊將小件の謀を説示し俄頃小城攻の分配して
 馬少鞍を置せ人少兵糧を食へ城中少火の獲るは己ハ瞬間小
 推寄る攻落せしを徇うける。如く経任ハも時利小由あり一鐵
 猪矢藤五小賊率五百名を授て陣營を成らせ。コダ身ハ鬼六五十五
 六木の偽將と共に千二百騎と將も。徐小府城又近著ハ如世九が
 暗號を俟不し小城の正門のくふ當りて猛火忽然と燃上り城を
 罵り騒ぐ声いと遠く傳え一驚破暗號を違へると衆賊と
 進め関を獲し莫先馬を馳り東の城門小攻蒐る小内ハ扉を
 開くハあり。経任ハも是ハ忍びなく欣然とく此も擬議せし鬼六五十五
 六共侶小會釋もく騎ハも。その隊の賊軍七八百。又分後且下と込
 程小雷鼓忽然と鳴ゆ。驚こく耳を貫死左隊のくより間中守
 直右隊のくより。下河邊高吉二隊の軍兵齊一起と射ハ前ハ各蟲の
 飛ぶ如く前小立と賊兵を矢庭よ七八騎射と落せハ賊軍いやく
 敬身ハ靡れと戦んと。擬勢多く進退殆度を失ふ。その前面より加
 世九ハ惡別當訥愿が首を刀尖小串れ。一隊の兵をおく。あつは
 出逆賊経任と。是ハ忍びなく賀殿の密策をうけ。のり。のり
 夜賊將鬼六小生拘と。是ハ苦肉の計略あり。遂小汝を計課せて
 物く来る。訥愿ハ既小刑罰せし。虎狼も慾ハ迷ハ。を欺き
 虚こと城小入り。夏山の照射小似る。自業自得天罰ハ。の如くあり
 べ。戈を伏し。束縛を受。呼。経任ハこれをや。あ。怒。面
 色烈火の如く馬上小戈とり伸。加世九を刺し。小退。出。打。揮

走る衆賊馬前小立騒げの一步も進むべくもあらず左右かく備と立ん
 とる馬屯狭うしく今さふ指揮まきくを憑切らる鬼六五五六の
 賊將之間中下河邊の両軍と戦んと欲まきともこま崩まき出んと
 する賊率小誘まきくどろど斜形の隅小推著らまきふと術まきまき
 路を開けと叫ぶの隊兵夥討まきく経任を見入りてかてまきまき
 かまのべれ雲を喚ぶ風を起し事の紛まき退れまき又戦のめとあひま
 戈を棄て剣を引抜死口小呪文を唱ればまき四邊より陰まき雲起くと
 程小二の城門まきと開せまき又賀藏入先仲ハ廣綱高利共侶小
 一隊の軍兵をねく突出し經任を目小くけり雷上動の弓をりく並積
 早ぬを射まきけるまきまきその馬前も賊兵未紛こと射小されて起らんと
 せし雲ハ散り吹んくつる風も起まき靈弓の徳再び見まき經任ハ幻術の
 行まきけまき頻り小遠く躬方の上を乗越まき影を暗し脱まきまき
 まき後小跟く鬼六五五六賊兵おくれ後れまき推れ推れハ轉ハ幸
 くして逃まきまきまき入り後まき賊兵を夥外面小まき
 入らんとまきまきのゆまきのまき彼まき推まき突倒まき躁調らまき
 まき引まき罵騒まきまき背まき守直高吉軍兵を駈進めまき漏
 まきと撃程小正門の橋のほりゆまき撃まき賊率亦まきその隙小経
 任ハ鬼六五五六と共小四五百騎の残兵をりく舊の陣營と投て退まき
 追田く敷まき先仲まき士率を引率て城をぬまきこれ成追鬼又
 廣綱ハ苗まき守直加世九と其の隊の兵を分部し前後の城門と
 守まきまきこれ又五百騎小將まきこの宵陣營を成りまき鐵指矢藤
 五重連ハ違小府城のまき成りまき被暗號の火ハ滅まき矢叫鯨波

のこころを幽小使えり。お初の内応のもの為損じ。躬方へ城小より籠
 らし戦の難義及ふ。お疾極まふ失あらん。とて賊率百餘名を
 遣し。小使を陣門を守らせ。二が方へ四百餘騎をおく。馳て府城小
 近はく。程小経任へを。四五百騎小敷。あて。鬼六五五六ホと共
 中。必死を脱まら。お後方を見えれば。光仲の大軍潮の盈
 が。追蒐。と甚急まり。かて陣所まで退せ。踏駐りて戦ふ
 へ。秋脱。程へ走。死秋。と。只管小疲。勞し馬小鞭。多。浩知小
 泉の。鐵盾。矢藤。五。援。来。新隊の弓。直と備。て。敵。て。ぞ
 引。光仲。と。先隊の大將。高吉。ホ。速。か。賊。と。逼。り。そ
 只。緩。小。追。べ。と。下。知。し。使。を。走。せ。け。る。程。と。経。任。へ。を。も。鐵
 盾。矢。藤。五。ホ。が。援。来。る。大。死。小。鉄。が。衆。賊。齊。一。陣。所。小。還。り。て
 備。を。立。ん。と。ま。る。程。小。忽。地。陣。門。の。背。より。猛。火。煽。と。燃。發。ま。る。二。隊
 の。軍。兵。突。出。し。二。騎。の。大。將。左。右。小。り。ま。る。真。先。と。馬。跳。り。て。逆。賊
 經。任。と。死。む。と。多。賀。殿。の。武。畧。小。後。ひ。甲。夜。より。竊。小。城。を
 出。る。この。陣。門。小。志。の。び。近。づ。死。援。の。賊。兵。出。む。ま。ふ。く。この。便。成
 して。遺。り。田。の。奴。原。を。或。へ。撃。と。り。或。へ。生。拘。り。多。ひ。の。隨。小。入。り。て
 女。を。小。俣。と。久。し。か。ひ。の。成。誰。と。ま。る。信。夫。莊。司。の。舊。臣。小。り。方
 の。あ。や。と。知。り。て。城。戸。四。郎。武。詮。と。り。水。草。太。郎。五。昌。之。と。り。又。と
 受。よ。と。喚。り。て。猛。火。の。下。より。殺。み。て。鬼。と。分。ら。ぬ。軍。兵。三。百。名。吐。と。嘯。て
 雜。立。突。伏。せ。勇。を。奮。て。攻。め。け。る。神。出。鬼。没。の。伏。兵。小。経。任。再。ひ。驚
 ら。備。を。立。る。小。暇。と。く。鬼。六。五。何。れ。小。と。り。矢。藤。五。五。五。六。と。く。彼
 蹴。ら。せ。と。亂。れ。立。る。瘴。と。り。悍。死。も。怯。ら。め。の。も。僉。陣。門。より

逃ゆ光仲の先鋒高利高吉士卒を進め追蒐する前後より
 さ一挟くいとまゝいづく攻撃もぞ又敷く力の少くもあつたこと
 経任と三騎の賊將と力を勤く稍一方を殺開九平泉のく逃奔
 城戸水草下河邊ホ達し返せと呼りけり齊一と云成追は福亦既小
 多く経任ホの泉川まゝ落延の馬をさそ乗入るは河水忽地左右に
 陸地をゆく小異るも後賊將賊卒も皆その迹を踏程に
 輒く川を渡りく活知小追隊の軍兵む多くと走來り早雄の士卒
 七八名中の一箇一水まぢ成渡りくま忽然と河水に小落あて件
 の士卒を流しり當下武詮曰之ホ高吉と由小追蒐すも士卒の
 溺る成んるおう流急けし救ふ由か河水霎時中絶し是をぞ
 経任の幻術と云ふと名も左右あはらむ入らむ向の岸を疾視てめりむ

其知小不行多か下程小光仲ハ佐味高利を先小立し備を計し
 士卒を進め泉川の上まぢ來り高吉ホの経任が幻術ゆり射
 兵之溺り且船をけし渡りく賊と走りく告り俄頃小追邊
 あり竹木と伐とく伐を造るめんといめを光仲受て推禁め窮寇ハ
 追ふべし今経任が首と獲むと天誅ゆり久く見且く小
 天を明し川を渡るとも遅れホあつた彼此に散在せる士卒をさか
 集合しそか揚螺吹かせ小けし衆皆本陣小聚り討
 首ども成實檢入るとれども各あり賊將の首級ハあつた此度ハ
 軍功ハ加世九小勝めのかと光仲其の詰朝使を城中へ遣り渠ハ
 感状をそ与へけりかく次の日光仲ハ平泉へ寄せん頃日経任が退け
 隠せし船駁求出さく泉川をうち渡り彼此の郷士野武士ホまごこのめ

提軍を傳へて。縁を徵め名を傳を呈し。走加るの多き。又千五
 百餘騎。小の即。三隊。小の。平泉へ寄。小及び。光仲
 諸將と軍議。斬を踰。壻を致。急小柵を破。賊ハ必死と
 必ハ決。一致。禦。柵を破。御。過半
 傷損。軟。軍小勝。功。経任。人の戦。小同類。夥撃
 せ。陣中。兵糧。皆焼。亡。平泉。柵。物の。之
 勿。且。捕。賊。千餘騎。ハ。異。軍敗
 して。賊。追。亦。賊。追。進。柵。攻。欲。或ハ
 主。客。勝。負。未。然。決。只。方。遠。卷。小。特
 角。の。勢。張。夜。鉦。鼓。を。鳴。鯨。波。を。揚。攻。と
 死。生。懈。成。を。失。是。必。然。の。勢。虚。小。乘。攻
 撃。一。戦。柵。を。抜。且。平。泉。の。柵。昔。藤。原。秀。衡。工。夫
 の。繩。張。了。究。竟。の。要。害。了。傳。果。違。ハ。軍
 令。小。隨。援。蒐。了。の。ハ。斬。の。陣。營。を。固。め。朝。掛
 夜。撃。の。用。心。せ。一。人。の。怠。慢。ハ。千。五。百。騎。の。命。小。係。敵。と。侮
 へ。と。嚴。小。告。捉。柵。を。距。と。数。所。堅。固。陣。を。布。了。
 且。遠。攻。少。を。又。修。羅。五。郎。経。任。ハ。三。個。の。賊。將。と。共。二
 残。兵。を。平。泉。の。柵。小。逃。籠。る。小。留。柵。を。成。了。
 賊。兵。五。六。百。名。加。之。討。漏。され。賊。率。五。騎。十。騎。は。還
 聚。の。無。慮。千。餘。騎。小。負。も。氣。を。屈。せ。鬼
 六。五。五。六。矢。藤。五。ホ。の。賊。將。小。攻。口。を。固。め。防。禦。の。軍。配。懈

らそ毎日小あつち城樓小登りて寄るの陣を見よと一日一
 の関のあつちとる一隊の軍兵出来たり。経任も中々と云ふ
 又遠眼鏡をとり直し。ほくともち見るふ紛ふべくもあらず。野方の
 兵あるけき腹裏小あつち。彼へ路大吠又が先度の敗軍の告小
 厨川よりゆくの兵をたたく。あつちの兵をたたく。あつちの
 五百騎よの過るべし。縦目が士卒を
 助けく柵へ入ると及休とも寄るの奴原渡留めく。皮の難
 義小及ん軟せん。とと剣を引抜れ。霎時呪文を唱ふ。雲裡々
 とく雲起り。柵中柵外忽地小野干玉の鳥夜と云れられ。黒
 白も別どあり。吠又これ便り。紙はく。業内知らる。と云ふ。周
 軍勢を繰入しけり。寄るを絶く。これをたたく。

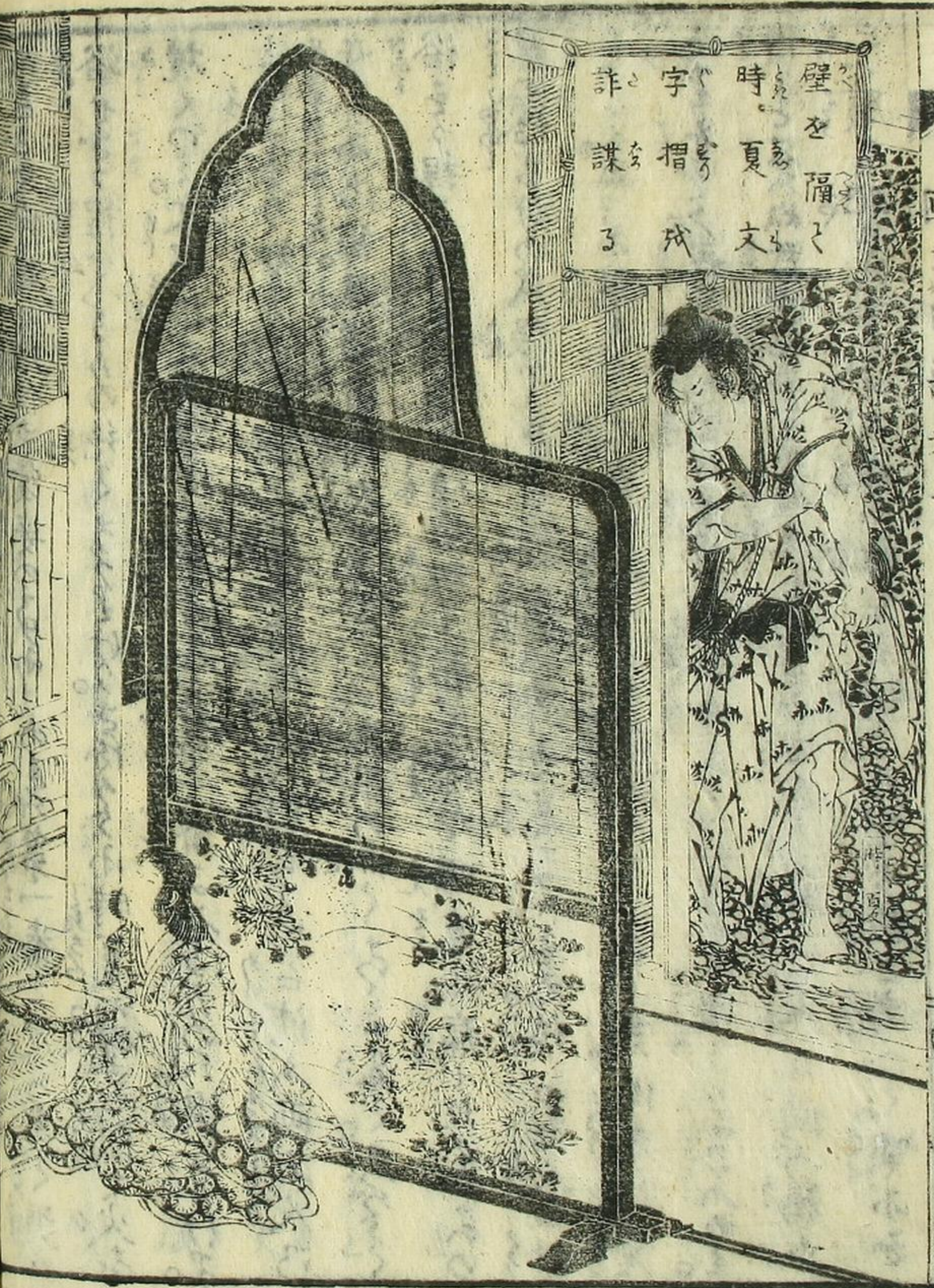
時未の下射る。小俄頃小暗く。あつち。こも経任が所行あり。
 撃く。知ん為。と。遠莫雷上動の靈弓あつち。あつち。小足と
 入出。撃んと。掌柄骨引く。士卒齊一俟。と。賊も一騎も出休
 と。且く。空霽け。後小只光仲の。経任が彼幻術。加
 勢の賊兵を引入。為。と。稍曉。と。士卒小云。と。示。と。
 事情を。と。皆悔。と。さ。程。と。経任ハ吠。又。加勢。と。
 合。と。千五六百騎。小。と。敵を侮。と。驕。と。遂。と。

衆賊を指揮せよ。と。且。と。我。と。詰。と。ひ。の。あ。と。バ。誇。と。貌。と。示。と。さ。と。か。と。ろ。と。あ。と。つ。と。や
 光仲。と。か。術。と。害。と。怕。と。只。遠。と。卷。と。小。と。志。と。つ。と。の。と。絶。と。く。一。遍。と。柵。と。を。攻。と。む。と。眼
 あ。と。つ。と。時。日。と。を。過。と。る。と。渠。と。か。と。る。と。む。と。兵。糧。と。竭。と。ん。退。と。死。と。去。と。ん。と。欲。と。さ。と。る。と。死
 柵。と。と。一。度。と。小。殺。と。出。と。さ。と。る。と。一。舉。と。と。光。仲。と。を。殺。と。さ。と。ん。と。疑。と。ひ。と。か。し。と。さ。の。と。

勞するところを。鬼六矢藤五吠又五十五六ホ小攻口と守らるる。身ハ帳臺の下小引籠。彼文字搦及夥の美女と聚合。淫酒乃為小患ひを忘る。歌舞郢曲小夜を曉し。又あつたハ獄舎より。義邦を牽出。して。あは瓜庭前。責鞭せ。道姫小説勸め。不隨せ。と催促。その他一毫も意小違ふ。のあま。立地。破殺。その肉を殺し。人小食せ。こまも食ひ。その残忍暴行。古小。今。小。多。く。を。あ。ま。れ。ん。の。顔。を。背。け。り。不。題。蘇。塗。鷄。東。二。暴。道。の。曩。小。敗。軍。の。咎。ゆ。り。閉。籠。ら。る。程。小。経。任。漫。二。敵。を。侮。り。軍。配。を。諸。將。に。任。し。て。酒。宴。遊。興。夜。を。日。に。續。く。淫。樂。を。の。ま。ま。と。傳。へ。せ。り。ち。驚。死。人。小。就。を。進。め。只。管。小。諫。し。經。任。は。瓜。庭。が。然。る。事。も。暴。道。を。軍。略。智。術。小。長。る。の。ろ。渠。を。免。り。召。出。し。舊。の。ど。く。軍。士。小。せ。寄。心。の。兵。糧。竭。る。成。り。て。敵。を。退。り。計。策。を。考。へ。む。や。と。多。く。も。召。出。さ。る。屢。こ。ま。と。辣。り。つ。つ。わ。ん。と。い。つ。う。か。さ。か。す。暴。道。を。用。ひ。ど。と。敵。小。克。れ。ぬ。こ。ろ。と。く。竟。小。諫。を。容。さ。り。ける。業。下。某。生。再。説。刀。野。太。郎。時。夏。ハ。既。小。雜。兵。又。追。降。さ。る。水。を。汲。む。風。爐。を。焼。き。い。く。む。の。日。と。送。れ。ど。逃。去。ら。ん。ゆ。り。づ。の。ま。ふ。こ。の。辱。を。忍。ぶ。お。う。ゆ。り。人。の。恨。小。獨。借。お。の。み。ち。暴。道。已。が。非。を。飾。り。龍。蛇。茂。林。の。敗。軍。を。こ。ら。す。ゆ。り。小。塗。著。す。これ。が。こ。の。龍。中。小。蟄。ら。る。ゆ。り。安。然。と。い。つ。日。を。送。り。こ。ら。浴。架。の。火。燒。鳥。尾。羽。ち。濡。り。啼。め。啼。ま。す。又。も。ド。搦。奴。も。憎。む。べ。し。こ。ら。あ。へ。ま。る。こ。ら。這。奴。ハ。主。小。許。さ。り。て。且。れ。と。余。を。累。る。情。話。の。舌。を。引。く。又。さ。小。主。媚。る。ん。その。後。絶。て。あ。ら。

かしその修羅殿の呑ゆと一旦さふふへりの成又豪奪く返さば。
 ふあつふりたるゆきも。嗚兒と主ゆの勝が。ぬるともあれか。
 あは文字搦奴が薄情をうさむ倫びてもあつふあべ。よやそとせ
 ぬるまむとも。いま今かろざるま。這奴未が為小水成汲る毎日小
 風爐を焼と知りや。渠が為小主小勸解と一言半句の執成をい
 ざるゆふそや怒の件の西人小あり。いま文字搦をも殺さむ。暴道
 をと殺さむと男子と生れ一甲斐のあむとせせま。かくせま。と
 獨らろ成苦しめ。一兩日と経る程小謀をゆとせ。その話朝文
 字搦が浴するを窺ひけり。抑経任と使。婢女輩の浴室を後
 堂の巽小あり。七間の行廊二間の浴盤日小新あり。又日小新と
 欲も美女小朝より暮るまで入りかり立かり。浴せむるとあささ

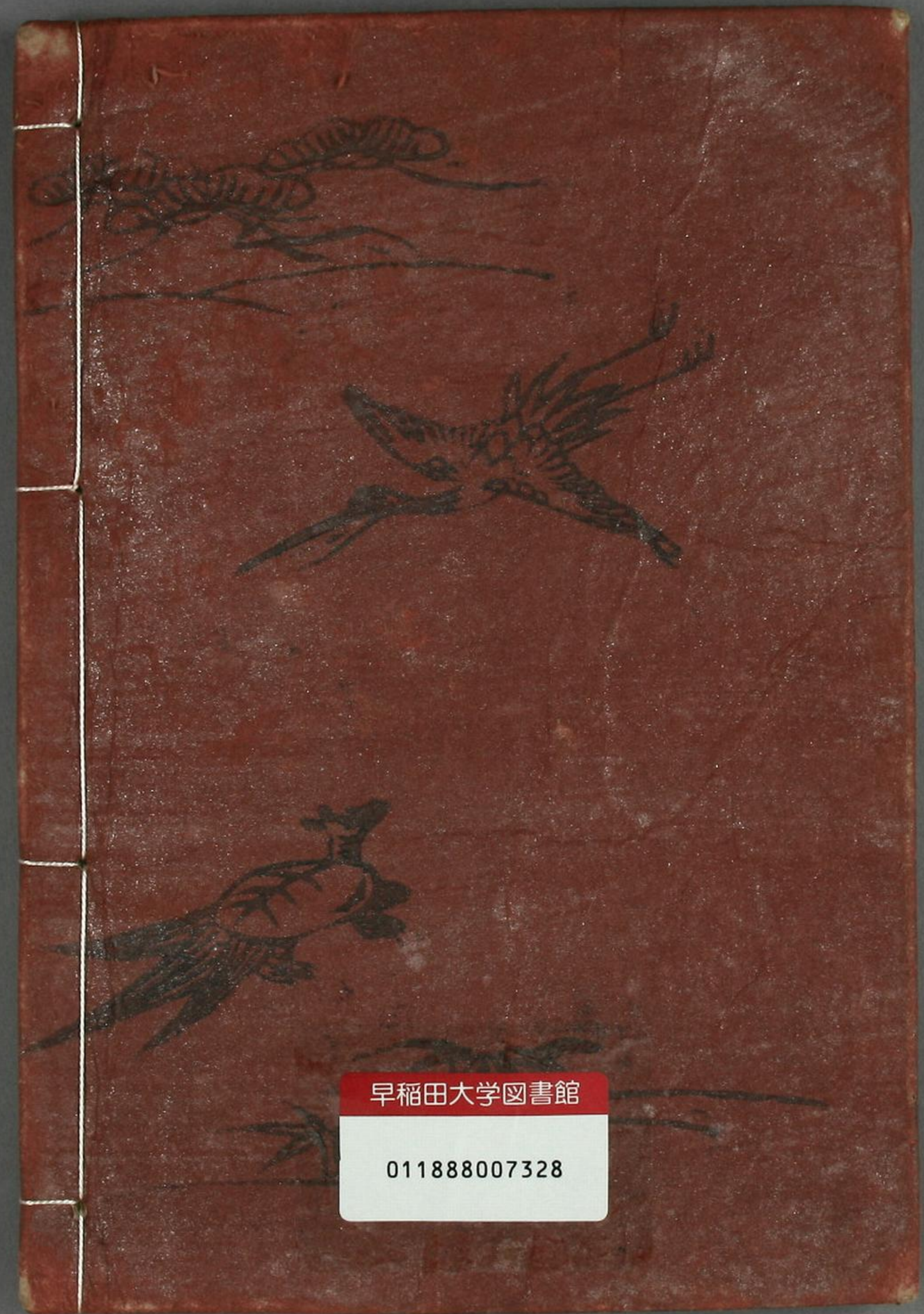
めと文字搦ハ経任が愛妾のりゆ。あま第一番と定らる。浴せむるとあささ
 浴せむるとあささ。程ハ入るゆの絶とあつせけり。さゆろろ小時夏ハ壁を隔て火を
 焼くの。文字搦をこころう。なると第一番と入るゆのハ渠ありけり。
 と豫てより知り。いまこの日も文字搦ハ肘ちろ小召使ふ西人乃
 童女小浴禪風爐布內衣をり。生平の如く。あつと。さささ
 浴する程又時夏を。知る薪を添々嘆息。痛し死か。この
 君の浴もけの。限。あつと。欽幸の。あつと。恙。終。人。計
 らさ。ぬ。小飽。大事小及ん。と。苟。ゆ。その。免。借。老。乃。契
 わ。末。の。松。山。波。の。越。ま。主。命。ま。が。恨。と。あ。の。の。
 憎。と。多。ぬ。君。が。為。小。その。仇。人。を。告。小。由。あ。最。上。の。川。使。小。鶴。を。
 已。腹。を。肥。さん。と。人。の。為。小。貼。と。捉。る。み。が。誰。と。考。へ。嚙。小。か



傳言已為老一

廿六

傷やまとまのひそと密あひかりふひらうあひの諺小似る壁訴訟を文字搦聴く空
とそくつとひらうくそと時夏ときあるまが石い近ちかづけくみぐう所以ゆゑ之同と
べくもあまむえうそわあめと必かなひら現いま逞たくましく女にあまどと情由こころあやう
人小外ひとあまごさうそ然しかしものひらうまてくあまむとあちあ極あめ一花の顔雪ゆきの
膚消くもえぬぐえあちんあ堪ぬ浴盤の湯烟小霧の中あう白蓮花彼
唐朝あの揚大真あが廬山小あぬ湯あるも果ハ馬塊あのそりぬ袖玉たまあま
汗あを拭ぬりくもあ者ぬる衣あの空燒あの留奇南あの熏あいと高あれあ社あるああの胸締あ
むまむああ衣あ裳あ裾あ掲あと童女ああ然あ前あ小立あ後あ小立あくあ出あくあ音あ置ありあ死あ
廊下あ履あああのあ局あへあのあそあがあぬあ異あ竟あ時あ夏あ文字あ搦あ成あ敬あ鳥あくあ又あはあるあ説あ
話あうあああるあそあ次あのあ卷あ小あ解あくあくあ成あんあくあまあんあ。



早稲田大学図書館

011888007328